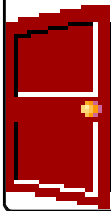


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

N o 55

桑村小学校令和5年10月18日 文責 渡邊

日頃、読み聞かせをした子供は本が好きになる!!

静岡新聞9月18日(月)の朝刊の一面の『大自在』に、「日頃、読み聞かせをした子どもは本が好きになる」という書き出しで文章が寄せられていました。

そして、この記事を書いた筆者は次のように綴っていました。

「大人にも学びのある作品が多く、何冊かお気に入りも見つけた。『だいじょうぶだいじょうぶ』(いとうひろし作・絵)はそうした作品の一つだ。一緒に散歩するおじいちゃんと幼い孫の交流を描いた。世の中にある怖いことや困ったこと知って不安になる『ぼく』を、おじいちゃんがいつも「だいじょうぶだいじょうぶ」とつぶやいて助けてくれる。ほのぼのとした絵と、おじいちゃんの優しさや孫の成長が温かな気持ちにさせる。同時に大人が子どもにかけ言葉の大切さや、子どもの不安を取り除く大人の責任を突きつけられているように思う。(以下、略)」

絵本は本当に素敵であると思います。たくさんの心が温まる本に私も出会ったように思います。この『だいじょうぶだいじょうぶ』もその中の大切な作品の一つでしょう。

私には孫が三人います。右の写真の男の子は長女の子供たちです。(※写真は、2年前の七五三の祝のもの)

現在、長男は小学1年生、次男は幼稚園の年中組になりました。二人ともサッカー教室に通い、元気に過ごしています。しかし、そうした孫たちが読書に興味があるかというのでしょうか？



【大好きな孫の写真より】

最近、本屋に行っては自分の図書を選ぶより先に、孫たちが喜びそうな絵本を選ぶ自分がいます。そして、それを持って孫たちの家に向かいます。彼らは満面の笑みで私を出迎えてくれます。とても幸せな時間を孫たちからもらいます。

長女は幼稚園の教諭をしています。仕事柄、勤め先である園で園児に向けて読み聞かせをしているようですが、仕事を終え、家に帰ってから家事を行った後での読み聞かせはなかなかたいへんようです。

読み聞かせをすることは、子供にとって大切なことであることは分かっていますが、親の体調や時間の関係でできないこともあるでしょう。そこは無理をしてはいけないと思います。親にゆとりがあれば、どんなときでも子供に笑顔で接することができますが、疲れているときはどうでしょう。(私が疲れている中、こうして読み聞かせをしているのに、なんでふざけて聞いているの)と強く叱責してしまうことがあるかもしれません。

読書は、子供も親も楽しく感じる事が大切です。ですから決して無理をしないでください。このことは娘にも伝えていきます。

サッカー教室で、休日忙しく過ごしている孫たちですが、時間に余裕ができれば、じいじと近くの図書館に行き、一緒に読書を楽しみたいと思います。(娘も育児から少し解放されることでリフレッシュすることでしょう。なんていいじいじなんだ!)

読書の秋！保護者の皆さんも、どうか無理をなさらずに、お子さんと一緒に読書を楽しむというスタンスで読み聞かせを楽しんでほしいと思います。